

学校教育
目 標

自分の力で考え、ともに伸びる
～ かしこく・やさしく・たくましく ～

めざす児童像

進んで考え学び合える子・問題解決に取り組む子・やさしさがあふれ心豊かな子・何事も初めからあきらめない子

高西中校区で共通して育てたい資質・能力

自立性・協働性・創造性

研究主題

自立的に問題を解決する児童の育成

～「困り感」と「個別最適な学び」を通して～

研究仮説

算数科と総合的な学習の学習において、「困り感」を抱かせる課題設定をしたり、個別最適な学びを推進したりすることで、自立的に問題解決する児童を育成することができるであろう。

算数科

総合的な学習の時間

「困り感」

- 【導入における課題提示の工夫】
- ①「困り感」を抱かせる場面の設定。
 - ②身近な生活場面と関連した問題の設定。

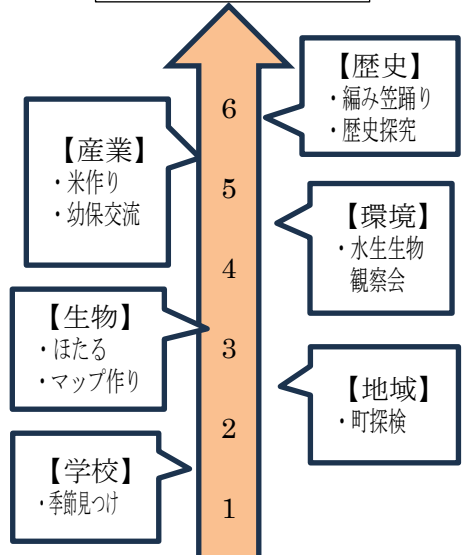
- 【「探究型」の単元開発】
- ①地域の宝「藤井川」に関するテーマの設定
 - ②「困り感」を抱かせる場面の設定
 - ③多様な価値観に触れるための、地域人材の活用

「個別最適な学び」

- 【自己選択・自己決定】
- ①自己決定・自己選択できるような練習問題の設定
 - ②デジタルコンテンツを「いつ・どのように」活用していくか、自己選択・自己決定できるような単元・授業の計画

- 【自己調整力の向上】
- ①ルーブリックを活用した、振り返りの場面の設定による、自己の学びの認識
 - ②学び方や表現方法の自己選択、自己決定

西藤の宝「藤井川」
を柱とした単元開発



【高西中校区コミュニティスクール】
米農家・水生生物観察会・公衆衛生協議会・西藤保育所・万福寺・シモ
ハナ物流・セブンイレブン・タカハシ自動車・福山大学など

算数科・総合的な学習の時間に共通するルーブリックの設定・活用

研究
内容

- ① 「困り感」を抱かせ、自立的に問題を解決する授業づくり
- ② 個別最適な学びに向けた、デジタルコンテンツ等の活用